

萬葉歌集

校異

十

|        |     |     |     |
|--------|-----|-----|-----|
| 和書門類   |     |     |     |
| 二八三五七號 | 八五函 | 一四架 | 二〇册 |

|      |        |     |     |
|------|--------|-----|-----|
| 內閣文庫 |        |     |     |
| 和書類  | 二八三五七號 | 八五函 | 二〇册 |

|      |           |       |  |
|------|-----------|-------|--|
| 內閣文庫 |           |       |  |
| 番號   | 和         | 28357 |  |
| 冊數   | 20 ( 10 ) |       |  |
| 函號   | 200       | 107   |  |



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak



萬葉集卷第

春雜歌

雜歌七首

詠霞三首

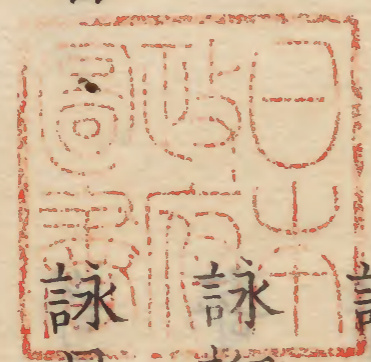
詠花二十首

詠雨一首

詠煙一首

歎舊二首

淺草文庫



詠鳥二十四首

詠柳八首

詠月三首

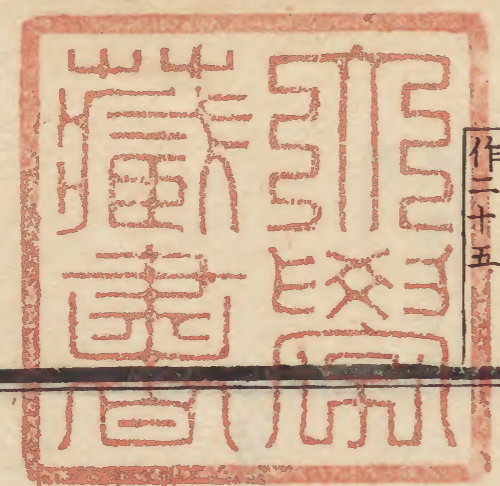
詠川一首

野遊四首

懽逢一首

曆春字上有雜  
字歌二

曆雜字上有春  
字七作四二十四  
作二十五



萬葉集卷一

旋頭歌二首

譬喻歌一首

春相聞一首

相聞七首

寄鳥二首

寄花九首

寄霜一首

寄霞六首

寄雨四首

寄草三首

寄松一首

寄雲一首

贈蕪一首

悲別一首

問答十一首

夏雜歌

詠鳥二十七首

詠蟬一首

詠榛一首

詠花十首

問答二首

譬喻一首

夏相聞十六首

寄鳥三首

寄蟬一首

寄草四首

寄花七首

寄露一首

寄目一首

曆  
譬喻下有歌  
字

古  
目作日

秋雜歌

七夕九十八首

詠花三十四首

詠雁三首

遊群十首

詠鹿鳴十六首

詠蟬一首

詠蟋蟀三首

詠蝦五首

詠鳥二首

詠露九首

詠山一首

詠黃葉四十一首

詠水田三首

詠河一首

詠月七首

詠風三首

詠芳一首

詠雨四首

詠霜一首

詠蝦二首

秋相聞

問答四首

相聞五首

寄水田八首

寄露八首

寄風二首

寄雨二首

寄蟋蟀一首

寄蝦一首

寄雁一首

寄鹿二首

寄鶴一首

寄草一首

寄花二十三首

寄山一首

寄黃葉三首

寄月三首

寄夜三首

寄衣一首

問答四首

譬喻歌一首

旋頭歌二首

冬雜歌一首

詠雪九首

雜歌四首

詠花五首

詠露一首

詠黃葉一首

詠月一首

冬相聞

相聞二首

寄露一首

寄霜一首

寄雪十二首

寄花一首

寄夜一首

音五一首  
音六一首  
音七一首  
音八一首  
音九一首  
音十一首  
音十一一首  
音十二一首  
音十三一首  
音十四一首  
音十五一首  
音十六一首  
音十七一首  
音十八一首  
音十九一首  
音二十一首

春雜歌

曆三句假名  
のくれ結句ハ  
ふいふ  
曆假名四五句  
尤れぬれしハ  
るくさあつヤハ  
ムルイ

曆結句之字作  
芝

久方之天芳山此夕霞霏霏春立下  
ヒサカタノアノカクヤ、コノユス、カスミタナヒクハルタツラレモ  
一キモクノヒハラニタテルハルカスミクレシオモヒハナツミケメヤ  
卷向之檜原丹立流春霞鬱之思者名積米八  
モ

古人之殖兼杉枝霞霏霏春者來良之  
イニシヘトノウケムスキカエニカスミタナヒクハルハキヌラシ

子等我手乎卷向山丹春去者木葉凌而霞霏  
コラカテラフニキモクヤマニハルサレハコノハレキテカスミタナ

霏

玉蜻夕去來者佐豆人之弓月我高荷霞霏霏  
カケロフヲラサリクレハサツヒトノユツキカダケニカスミタナヒク

萬葉卷十

四

曆假名多々  
之のよるをこへん  
しやふらふせらふ

曆 開作關  
總 同

今朝去而明日者來牟等云子鹿丹且妻山丹

霞霏霞

子等名丹開之宜朝妻之片山木之爾霞多奈

引

右柿本朝臣人麿歌集出

詠鳥

打霏春立奴良志吾門之柳乃宇禮爾鷺鳴都  
梅花開有崗邊爾家居者之毛不有鷺之音

春霞流共爾青柳之枝啄持而鷺鳴毛

吾瀨子乎莫越山能喚子鳥君喚變瀨夜之不

深刀爾

朝井代爾來鳴泉鳥汝谷文君丹戀八時不終

鳴

冬隱春去來之足比木乃山二毛野二毛鷺鳴

裳

紫之根延橫野之春野庭君乎懸管鷺名雲

曆 比作日乃字  
下有秀字

曆 二句假名  
ふくふくとしり  
ふくふくとしり  
ふくふくとしり

萬葉集卷十一

六

曆 去作在假名  
つるれとつるど  
とんと  
異 去作在  
曆 從猿作徒狹  
假名つるどつるど  
つるどつるど

曆 二句假名  
よれとよみと

曆 三句假名  
のれとよみと

穗 毛作米

曆 二句假名  
よれとよみと  
よれとよみと  
よれとよみと

曆 初句假名  
のれとよみと

曆 初句假名  
のれとよみと

曆 假名  
よれとよみと

春之去者妻乎求等鷺之木末乎傳鳴乍本名  
カス カナル ハカヒ ノ ヤユ ニ サホ ノ 夕チヘ ナキ ユクナル ハタレ  
春日有羽買之山從猿帆之内敝鳴往成者孰

喚子鳥  
ヨフ コトリ

不答爾勿喚動曾喚子鳥佐保乃山邊乎上下  
コタヘヌ ニ ナヨヒ トヨミ ソヨフ コトリ サホ ノ ヤマヘ ラ 糸リクダリ

二

梓弓春山近家居之續而聞良牟鷺之音  
アサ ユニ ハル ヤマチカクイヘ 井シテツキテ キク ラム ウクヒスノ ユユ

打靡春去來者小竹之米丹尾羽打觸而鷺鳴  
ウチナヒキ ハル サリクレ ハレノ ノメ ニラ ハ ウチフレ テウクヒスナク

毛

朝霧爾之怒怒爾所沾而喚子鳥三船山從喧  
アサキリニ シスヌニヌレテ ヨフコトリニ フチノヤニ ナキ

渡所見  
ワタルニ ユ

打靡春去來者然為蟹天雲霧相雪者零管  
ウチナヒキ ハル サリクレ ハレカス カニ アマクモキリアヒ ユキハフリツ

梅花零覆雪乎覆持君爾令見跡取者消管  
ウタノハナ フリオホフユキ フツミモテキニニ ミセム トレハキエツ

梅花咲落過奴然為蟹白雪庭爾零重管  
ウタノハナ サキチリスキヌ シカス カニ シラユキニハニ フリカサチツ

今更雪零目八方蜻火之燎留春部常成西物  
イ、サラニユキ フラメ ヤモ、カケロフノ モユル ハルヒ トナリニシモノ

乎

風交雪者零乍然為蟹霞田菜引春去爾來  
カセニサリユキハ フリツ、シカス カニカスミタ ナヒキハル サリニケリ



曆 假名や  
三句假名  
とのと

山際爾鷺喧而打靡春跡雖念雪落布沼  
峰上爾零置雪師風之共此間散良思春者雖  
有

右一首筑波山作

為君山田之澤惠具採跡雪消之水爾裳裾所  
沾

梅枝爾鳴而移徙鷺之翼白妙爾沫雪曾落

山高三零來雪乎梅花落鴨來跡念鶴鳴

一云梅花開香裳落跡

除雪而梅莫戀足曳之山片就而家居為流君

右二首問答

詠霞

昨日社年者極之賀春霞春日山爾速立爾來

寒過暖來良思朝鳥指滓鹿能山爾霞輕引

鷺之春成良思春日山霞棚引夜目見侶

詠柳

異 一云巴下七  
字小書二行

活 枝作木支二  
字  
曆 落鴨來作落  
來鴨田句假名ち  
へくうと

曆 詠霞下有三  
首二字  
總 詠霞歌三首  
以下題有歌

異 成作來  
總 詠柳下有八  
首二字

活 十作十  
總 同  
曆 四句假名か  
つにすへ

曆 假名やぶふ  
そのゆふふふえ  
ぬふりやみほい  
るあひかハのそく  
ハやくこうも  
曆 假名あこ  
しく回五うく  
くちうりやあれ  
曆 開作問三句  
假名いりこと四  
句みくうはひも

曆 三句假名か  
じたり  
曆 持下有而字  
假名人めゆれ  
しりてそん

曆 結句假名い  
まらちうん  
曆 乎作字乱風  
作風乱  
曆 假名とこ  
とにんめはは  
も結句  
活 不行字  
曆 三句假名ツ  
ナヒキ四句  
るてあ

霜干冬柳者見人之蘂可爲目生來鴨

浅緑染懸有跡見左右二春楊者目生來鴨

山際爾雪者零管然爲我二此河楊波毛延爾

家留可聞

山際之雪不消有乎水飯合川之副者目生來鴨

朝且吾見柳鶯之來居而應鳴森爾早奈禮

青柳之絲乃細紗春風爾不亂伊間爾令視子

裳欲得

百礮城大宮人之蘂有垂柳者雖見不飽鴨

梅花取持見者吾屋前之柳乃眉師所念可聞

詠花

鶯之木傳梅乃移者櫻花之時片設奴

櫻花時者雖不過見人之戀盛常今之將落

我刺柳絲乎吹亂風爾加妹之梅乃散覽

每年梅者開友空蟬之世人君羊蹄春無有來

打細爾鳥者雖不喫繩延守卷欲寸梅花鴨

萬葉集卷之七

活 毎部字  
曆 初名名  
まかへ  
三句假名ろ  
うやく

馬並而高山部乎白妙丹令艷色有者梅花鴨

花咲而實者不成登裳長氣所念鴨山振之花

能登河之水底并爾光及爾三笠之山者咲來

鴨

見雪者未冬有然為蟹春霞立梅者散乍

去年咲之久木今開徒土哉將墮見人名四二

足日木之山間照櫻花是春雨爾散去鴨

打靡春避來之山際最木末之咲往見者

春鳩鳴高圓邊丹櫻花散流歷見人毛我裳

阿保山之佐宿木花者今日毛鴨散亂見人無

二

川津鳴吉野河之瀧上乃馬醉之花曾置末勿

勤

春雨爾相爭不勝而吾屋前之櫻花者開始爾

家里

春雨者甚勿零櫻花未見爾散卷惜裳

春

活櫻作梅

春去者散卷惜櫻花片時者不咲含而毛欲得  
見渡者春日之野邊爾霞立開艷者櫻花鴨  
何時鴨此夜之將明鷺之木傳落梅花將見

詠月

春霞田菜引今日之暮三伏一向夜不穢照良  
武高松之野爾

爾指天一云春去者木陰多暮月夜  
春去者紀之許能暮之夕月夜鬱東無裳山陰

古一云已下凡  
字小書二行

朝霞春日之晚者從木間移歷月乎何時可將

待

詠雨

春之雨爾有來物乎立隱妹之家道爾此日晚  
都

詠河

今往而聳物爾毛我明日香川春雨零而瀧津  
湍音乎

古聳作聞

萬葉卷下

異菟作鬼

詠煙

春日野爾煙立所見媿孀等四春野之菟芽子採而煮良思文

野遊

春日野之淺芽之上爾念共遊今日忘目八方春霞立春日野乎往還吾者相見彌年之黄土春野爾意將述跡念共來之今日者不晚毛荒

赤人集二句假名

百礮城之大宮人者暇有也梅乎挿頭而此間集有

歎舊

寒過暖來者年月者雖新有人者舊去物皆者新吉唯人者舊之應宜

懽逢

住吉之里得之鹿齒春花乃益希見君相有香聞

萬葉卷十

旋頭歌

カスカナルミカサノヤマニツキモイテヌカモサキヤマニ  
春日在三笠乃山爾月母出奴可母佐紀山爾  
サケルサクラノハチノミルヘク  
開有櫻之花乃可見

シラユキノトコレクフユハスキニケラレモハルカスミタナヒクノ  
白雪之常敷冬者過去家良霜春霞田菜引野  
ヘノウクヒスナクモ  
邊之鶯鳴鳥

譬喻歌

ワカヤトノケモ、ノシタニツキヨサレシタヨロシクウタテコノ  
吾屋前之毛桃之下爾月夜指下心吉菟楯頃  
者

總鳥作焉

春相聞

類古 犬作友 眷作春思作  
恩古 眷作春思作  
活古 手作乎 每渡鴨二字

カスカノニヌルウクヒスナキワカカリマスホトオモヒマス  
春日野犬鳴別眷益間思御吾

フユモリルサクハチヲヲリモテチヘノカキリモヒワルカモ  
冬隱春開花手折以千遍恨戀渡鴨

ハルヤモノキリニトヘルウクヒスモワレニサリテモノオモハメヤ  
春山霧惑在鶯我益物念哉

イテ、ミルムカヒノラカノモトシケクサキタルハチノナラスハヤミシ  
出見向崗本繁開在花不成不止

カスミタツハルノナカヒラコヒクランシヨノフケユケハイモニアルカモ  
霞發春永日戀暮夜深去妹相鴨

バルサレハマツサキ弁ノサキクアラハノチモアヒミムナコヒソワキモ  
春去先三枝幸命在後相莫戀吾妹

ハルサレハシタリヤチキノトヲラニモイモカコ、ロニリニケルカモ  
春去為垂柳十緒妹心乘在鴨

右柿本朝臣人麿歌集出

寄鳥

春之在者伯勞鳥之草具吉雖不所見吾者見  
將遣君之當婆

容鳥之間無數鳴春野之草根之繁戀毛爲鴨

寄花

春去者宇乃花具多思吾越之妹我垣間者荒  
來鴨

梅花咲散苑爾吾將去君之使乎片待香花光

藤浪咲春野爾蔓葛下夜戀者久雲在

春野爾霞棚引咲花之如是成二手爾不逢君

可母

吾瀨子爾吾戀良久者與山之馬醉花之今盛

有

梅花四垂柳爾折雜花爾供養者君爾相可毛

姬部思咲野爾生白管自不知事以所言之吾

背

梅花吾者不令落青丹吉平城之人來管見之

根

如是有者何如殖兼山振乃止時喪哭戀良苦

念者

寄霜

春去者水草之上爾置霜之消乍毛我者戀度

鴨

寄霞

春霞山棚引鬱妹乎相見後戀毛

春霞立爾之日從至今日吾戀不止本之繁家

波 一云片念爾指天

左丹頰經妹乎念登霞立春日毛晚爾戀度可

母

靈寸春吾山之於爾立霞雖立雖座君之隨意

見渡者春日之野邊爾立霞見卷之欲君之容

古一云已下五  
字小字二行



儀香カメカ

戀乍毛今日者暮都霞立明日之春日乎如何コヒツ、モケケフハクワシツカスミタツアスノハルヒヲイカテ

將晚クラサム

寄雨

吾背子爾戀而為便莫春雨之零別不知出而ワカセコニコヒテスヘナニハルサメノフルキシラスイテ、

來可聞コシカモ

今更君者伊不往春雨之情乎人之不知有名イマサラニキミハイユクナハルサメノコロヲヒトノシラサラナ

國クニ

春雨爾衣甚將通哉七日四零者七夜不來哉ハルサメニヨモハイトボラメヤナヌカレフラハナ、ヨコシトヤ

梅花令散春雨多零客爾也君之廬入西留良ウメノハナケラスハルサメサニフルタヒニヤキミカイホリセルラ

武ム

寄草

國栖等之春菜將採司馬乃野之數君麻思比クニスラカワナツムラムシハノノ、シハクキミヲオモフコ

日コロ

春草之繁吾戀大海方往浪之千重積ハルクサノシケキワカコヒオホウミノカタユクナミノチヘニツモリス

不明公乎相見而管根乃長春日乎孤戀渡鴨ホノカニモキミヲアヒミテスカノ子ノナカキハルヒヲコヒワタルカモ

活便作使

活甚作是

總戀作非

異來作永  
活同

寄松

梅花咲而落去者吾妹乎將來香不來香跡吾  
待乃木曾

寄雲

白檀弓今春山爾去雲之逝哉將別戀敷物乎

贈蘊

大夫之伏居嘆而造有四垂柳之蘊為吾妹

悲別

朝戸出之君之儀乎曲不見而長春日乎戀八

九良三日八寸

問答

春山之馬醉花之不惡公爾波思惠也所因友

好

石上振乃神杉神備而吾八更更戀爾相爾家

留

右一首不有春歌而猶以和故載於茲次

異神下有佐一  
字

狹野方波實爾雖不成花耳開而所見社戀之名草爾

狹野方波實爾成西乎今更春雨零而花將咲

八方

梓弓引津邊有莫告藻之花咲及二不會君毛

川上之伊都藻之花之何時何時來座吾背子

時自異日八方

春雨之不止零零吾戀人之目尚矣不令相見

吾妹子爾戀乍居者春雨之彼毛知如不止零

相不念妹哉本名管根之長春日乎念晚牟

春去者先鳴鳥乃鷺之事先立之君乎之將待

相不念將有兒故玉緒長春日乎念晚久

夏雜歌

詠鳥

大夫丹出立向故郷之神名備山爾明來者拓

之左枝爾暮去者小松之若未爾里人之聞戀  
麻田山彦乃答響萬田霍公鳥都麻戀為良思  
左夜中爾鳴

反歌

客爾為而妻戀為良思霍公鳥神名備山爾左  
夜深而鳴

右古歌集中出

霍公鳥汝始音者於吾欲得五月之珠爾交而

將貫

朝霞棚引野邊足檜木乃山霍公鳥何時來將

鳴

旦霞八重山越而喚孤鳥吟八汝來屋戸母不

有九二

霍公鳥鳴音聞哉宇能花乃開落岳爾田草引

憾孀

月夜吉鳴霍公鳥欲見吾草取有見人毛欲得

藤浪之散卷惜霍公鳥フチナ三ノチラマクヲレニホト、キス、イマキノヲカヲナキテコユナリ今城岳叫鳴而越奈利  
 且霧八重山越而霍公鳥宇能花邊柄鳴越來アサキリノヤヘヤムユエテホト、キス、ウノハチヘカラナキテユラシ  
 木高者曾木不殖霍公鳥來鳴令響而戀令益コタカクハカツテキウエンホト、キス、キナキトヨミテコロミサラシム  
 難相君爾逢有夜霍公鳥他時從者今社鳴目アヒカタキキニアヘルヨ、ホト、キス、コトトキヨリハイマコソナカメ  
 木晚之暮闇有爾コノクレノユフヤニナルニ一云ホト、キス、イツコヲイヘトナキ霍公鳥何處乎家登鳴  
 渡良哉ワタルラニ  
 霍公鳥今朝之旦明爾鳴都流波君將聞可朝ホト、キス、ケサノアサケニナキツルハキニキクラムカアサ  
 宿疑將寐イカヌラム

霍公鳥花橘之枝爾居而鳴響者花波散乍ホト、キス、ハナタキハナノエタニ井テナキトヨメハハチハチリツ、  
 慨哉四去霍公鳥今社者音之干蟹來喧響目ヨシエヤシユクホト、キス、イマコソハコエノカルカニキナキトヨメ  
 今夜乃於保束無荷霍公鳥喧奈流聲之音乃コノヨラノオホツカナキニホト、キス、ナクナルコエノオトノ  
 遙左ハルケサ  
 五月山宇能花月夜霍公鳥雖聞不飽又鳴鳴サツキヤマウノハチツキヨホト、キス、キケトモアカスマタナカムカモ  
 霍公鳥來居裳鳴香吾屋前乃花橘乃地二落ホト、キス、キ井テモナリカワカヤトノハナタキハチノツチニオチ  
 六見牟ムミム  
 霍公鳥厭時無菖蒲蕩將為日從此鳴度禮ホト、キス、イトフトキナシアマメクサカツラニセムヒコユナキワタレ

總  
齊作齊

山跡庭啼而香將來霍公鳥汝鳴每無人所念

宇能花乃散卷惜霍公鳥野出山入來鳴令動

橘之林乎殖霍公鳥常爾冬及住度金

雨晴之雲爾副而霍公鳥指春日而從此鳴度

物念登不宿且開爾霍公鳥鳴而左度為便無

左右二

吾衣於君令服與登霍公鳥吾乎領袖爾來居

管

本人霍公鳥乎八希將見今哉汝來戀乍居者

如是許雨之零爾霍公鳥宇之花山爾猶香將

鳴

詠蟬

默然毛將有時母鳴奈武日晚乃物念時爾鳴

管本名

詠榛

思子之衣將摺爾爾保比與島之榛原秋不立

友トモ

詠花

風散花橘カキニチルハナタチハナヲ袖受而為君御跡思鶴鴨ソテニウケテキミカミタメトオモヒツルカモ

香細寸花橘カクシキハナタチハナヲ乎玉貫將送妹者三禮而毛有香タニヌキオクラムイモハニツレテモアルカ

霍公鳥來鳴響橘之花散庭乎將見人八孰ホトキスキナキトニヌタチハナノハナチルニハヲニムヒトヤタレ

吾屋前之花橘者落爾家里悔時爾相在君鴨ワカヤトノハナタチハナハチニケリタレキトキニアヘルキミカモ

見渡者向野邊乃石竹之落卷惜毛雨莫零行ミワタセハムカヒノヘノオテレコノチラマクヲレモアノナフリユ

年シ

雨間開而國見毛將為乎故郷之花橘者散家アメマアケテクニニモセムヲフルサトノハナタチハナハチリニケ

年可聞ムカモ

野邊見者瞿麥之花咲家里吾待秋者近就良ノヘミレハオテレコノハナサキニケリワカニツアキハチカツクラ

思母シモ

吾妹子爾相市乃花波落不過今咲有如有與ワキモコニアフチノハナハチリスキヌイマサケルコトアリソハ

奴香聞ヌカモ

春日野之藤者散去而何物鴨御狩人之折而カスカノフチハチリユキテナニヲカモニカリノヒトノヲリテ

將挿頭ツクミ

古  
每為字

不時玉乎曾連有宇能花乃五月乎待者可久

有

問答

宇能花乃咲落岳從霍公鳥鳴而沙渡公者聞

津八

聞津八跡君之問世流霍公鳥小竹野爾所活

而從此鳴綿類

譬喻歌

橘花落里爾通名者山霍公鳥將令響鴨

夏相聞

寄鳥

春之在者醉輕成野之霍公鳥保等穗跡妹爾

不相來爾家里

五月山花橘爾霍公鳥隱合時爾逢有公鴨

霍公鳥來鳴五月之短夜毛獨宿者明不得毛

寄蟬



日倉足者時常雖鳴我戀手弱女我者不定哭

寄草

人言者夏野乃草之繁友妹與吾携宿者

迺者之戀乃繁久夏草乃苜掃友生布如

真田葛延夏野之繁如是戀者信吾命常有目

八方

吾耳哉如是戀為良武垣津旗丹類令妹者如

何將有

寄花

片搓爾絲叫曾吾搓吾背兒之花橘乎將貫跡

母日手

鴛之往來垣根乃宇能花之厭事有哉君之不

來座

宇能花之開登波無二有人爾戀也將渡獨念

爾指天

吾社葉憎毛有目吾屋前之花橘乎見爾波不

活憎作持

萬葉卷十

七三

來鳥屋

霍公鳥來鳴動崗部有藤浪見者君者不來登

夜

隱耳戀者苦瞿麥之花爾開出與朝旦將見

外耳見箇戀牟紅乃未採花乃色不出友

寄露

夏草乃露別衣不著爾我衣手乃干時毛名寸

寄日

六月之地副割而照日爾毛吾袖將乾哉於君

不相四手

秋雜歌

七夕

天漢水左閉而照舟竟舟人妹等所見寸哉

久方之天漢原丹奴延鳥之裏歎座津乏諸手

丹

吾戀孀者知遠往船乃過而應來哉事毛告火

總箇作筒  
異同

活無爾

活乾作朝

曆舟作丹下同  
此歌假名

曆此歌假名

曆 奴作叔二三句假名いふとこのつぎこれ

曆 自作日結句つぎてみれ

曆 石作在

曆 此歌假名は異竟作競

曆 自作目此歌假名

曆 初句假名はさうどの

曆 三句みり

曆 初二句うたのとうまうこれ

曆 二句いもいのちハ

曆 於あぢくもゆふうととと活 壯作杜

曆 言作奇此歌假名

曆 此歌假名

高麗卷

七五

アカラヒクシキタノコラレハミレハヒトツマニユニワレコヒスヘシ  
朱羅引色妙子數見者人妻故吾可戀奴  
アマノカハヤスノワタリニフチウケテアキタチマツトイモニツケヨク  
天漢安渡丹船浮而秋立待等妹告與具  
オホソラニカヨフワレスラナレユニアマノカハチラナツミテ  
從蒼天往來吾等須良汝故天漢道名積而叙  
來

ヤチホコノカニノミヨハリトモシツマヒトシリニケリツキテオモハ  
八千戈神自御世之嬬人知爾來告思者  
ワカコフルニホノオモハコヨヒモカアマノカハラニイツマクラマク  
吾等戀丹穗面今夕母可天漢原石枕卷  
オノカツトモシキコラハラアラヒツアライツマキテ子マクマチカチ  
已嬬之子等者竟津荒磯卷而寐君待難  
アメツチトワカレシトキニオノカツマシカソテニアルアキマツツレハ  
天地等別之時從自嬬然叙手而在金待吾者

ヒコホシナケカスイモニコトタニモツケニソクツルミレハクルミ  
彦星嘆須嬬事谷毛告余叙來鶴見者苦彌  
ヒサカタノアマノシルシトミナセカハタテオキレカミヨノウラニ  
久方天印等水無河隔而置之神世之恨  
ヌハタマノヨキリコモリテトホクトモイモシツタハハヤクツケヨ  
黒玉霄霧隱遠靱妹傳速告與  
ナカコフルイモノミコトハアクマテニソテフリミエツクカクルマテ  
汝戀妹命者飽足爾袖振所見都及雲隱  
ユラツモカヨフアマチライツマテカアキテマタムツキヒトヲトコ  
夕星毛往來天道及何時鹿仰而將待月人壯  
アマノカハコムカヒタチテコフラクニコトタニツカムツマトフマテハ  
天漢已向立而戀等爾事谷將告嬬言及者  
シラタノイホツツトヒラトキモニスラレハカカタヌ  
水良玉五百都集乎解毛不見吾者于可太奴  
相日待爾

高麗卷

七五

曆 二句假名水  
うひくさの

曆 二句まは  
まさはぬ  
雲 假名同  
袖 同

曆 四五句ま  
ねこまかちのお  
とまこゆ

曆 初句假名と  
日しまひ

活 伐作代

曆 此歌假名ま

曆 結句假名れ  
もふよそふは  
あふん

曆 あひまらく

活 過作過

異 奈作爾

天漢水陰草金風靡見者時來之

吾等待之白茅子開奴今谷毛爾寶比爾往奈

越方人邇

吾世子爾裏戀居者天河夜船榜動梶音所聞

真氣長戀心自白風妹音所聽紉解往名

戀敷者氣長物乎今谷乏牟可哉可相夜谷

天漢去歲渡伐遷閉者河瀨於蹈夜深去來

自古舉而之服不顧天河津爾年序經去來

天漢夜船榜而雖明將相等念夜袖易受將有

遙嫫等手枕易寐夜雞音莫動明者雖明

相見久狀雖不足稻目明去來理舟出爲牟孌

左屋始而何太毛不在者白榜帶可乞哉戀毛

不遏者

萬世攜手居而相見鞞念可過戀奈有莫國

萬世可照月毛雲隱苦物叙將相登雖念

白雲五百遍隱雖遠夜不去將見妹當者

萬葉集卷十

廿六

萬葉集卷十

廿六

活 無布字

活 衣作夜

曆 結句こゝい  
あらん

曆 無而字

曆 過作過二句  
るぬのよのこ  
三句こゝい  
水

曆 沼作治

為我登織女之其屋戸爾織白布織豆兼鴨

君不相久時織服白袴衣垢附麻豆爾

天漢梶音聞孫星與織女今夕相霜

秋去者河霧天川河向居而戀夜多

吉哉雖不直奴延鳥浦嘆居告子鴨

一年邇七夕耳相人之戀毛不遏者夜深徃久

毛

一云不盡者佐霄曾明爾來

天漢安川原定而神競者磨待無

此歌一首庚辰年作之

右柿本朝臣人曆歌集出

棚機之五百機立而織布之秋去衣孰取見

年有而今香將卷烏玉之夜霧隱遠妻手乎

吾待之秋者來沼妹與吾何事在曾紉不解在

牟

年之戀今夜盡而明日從者如常哉吾戀居牟

萬葉集卷十一

廿七

萬葉集卷十

十八

不合者氣長物乎天漢隔又哉吾戀將居  
戀家口氣長物乎可合有夕谷君之不來益有  
良武

牽牛與織女今夜相天漢門爾浪立勿謹  
秋風吹漂蕩白雲者織女之天津領巾毛毳

數裳相不見君矣天漢舟出速為夜不深間  
秋風之清夕天漢舟榜度月人壯子

天漢霧立度牽牛之楫音所聞夜深往

活 壯作壯

曆 かののれと  
穂 躰作躰  
曆 あいのうと  
かといてしち  
曆 一云已下五  
字小書二行

君舟今榜來良之天漢霧立渡此川瀨

秋風爾河浪起暫八十舟津三舟停

天漢川聲清之牽牛之秋榜舟之浪躰香

天漢川門立吾戀之君來奈里紉解待 一云

天川河向立

天漢川門座而年月戀來君今夜會可母

明日從者吾玉床乎打拂公常不宿孤可母寐

天原往射跡白檀挽而隱在月人壯子

萬葉集卷十

十八

此夕零來雨者男星之早榜船之賀伊乃散鴨

天漢八十瀨霧合男星之時待船今榜良之

風吹而河浪起引船丹度裳來夜不降間爾

天河速度者無友公之舟出者年爾社候

天河打橋度妹之家道不止通時不待友

月累吾思妹會夜者今之七夕續巨勢奴鴨

年丹裝吾舟榜天河風者吹友浪立勿忌

天河浪者立友吾舟者率榜出夜之不深間爾

直今夜相有兒等爾事問母未為而左夜曾明

二來

天河白浪高吾戀公之舟出者今為下

機蹋木持往而天河打橋度公之來為

天漢霧立上棚幡乃雲衣能飄袖鴨

古織義之八多乎此暮衣縫而君待吾乎

足玉母手珠毛由良爾織旗乎公之御衣爾織

將堪可聞

活堪作堤

葛葉卷下

七

曆 得作問  
活 得作待

曆 檝下每之字

曆 每公字每來

擇月日逢義之有者別乃惜有君者明日副裳

欲得

天漢瀨深彌泛船而棹來君之檝之音所聞

天原振放見者天漢霧立渡公者來良志

天漢瀨每幣奉情者君乎幸來座跡

久方之天河津爾舟泛而君待夜等者不明毛

有寐鹿

天河足沾渡君之手毛未枕者夜之深去良久

渡守船度世乎跡呼音之不至者疑桴之聲不

爲

真氣長河向立有之袖今夜卷跡念之吉沙

天漢渡湍每思乍來之雲知師逢有久念者

人左倍也見不繼將有牽牛之孀喚舟之近附

往乎 一云見乍有良武

天漢瀨乎早鴨鳥珠之夜者闌爾乍不合牽牛

渡守舟早渡世一年爾二遍往來君爾有勿久

曆 得作問

曆 檝下每之字

曆 每公字每來

古 久作之

曆 之聲作聲之

曆 吉作苦

曆 一云以下五  
字小書二行

曆 闕作開



爾

玉葛不絶物可良佐宿者年之度爾直一夜耳

戀日者氣長物乎今夜谷令乏應哉可相物乎

織女之今夜相奈婆如常明日乎阻而年者將

長

天漢棚橋渡織女之伊渡左牟爾棚橋渡

天漢河門八十有何爾可君之三船乎吾待將

居

秋風乃吹西日從天漢瀨爾出立待登告許曾

天漢去年之渡湍有二家里君將來道乃不知

久

天漢瀨湍爾白浪雖高直渡來沼待者苦三

牽牛之孀喚舟之引網乃將絕跡君乎吾念勿

國

渡守舟出爲將出今夜耳相見而後者不相物

可毛

活 吾字下有义  
異 同

異 將出作將去

異 惜作借

吾隱有楫棹無而渡守舟將惜八方須臾者有

待

乾坤之初時從天漢射向居而一年丹兩遍不

遭妻戀爾物念人天漢安乃川原乃有通出出

乃渡丹具穗船乃艦丹裳舳丹裳船裝真梶繁

拔旗荒本葉裳具世丹秋風乃吹來夕丹天川

白浪凌落涕速湍涉稚草乃妻手枕迹大船乃

思憑而榜來等六其夫乃子我荒珠乃年緒長

思來之戀將盡七月七日之夕者吾毛悲鳥

反歌

狗錦紉解易之天人乃妻問夕叙吾裳將偲

彥星之川瀨渡左小舟乃得行而將泊河津石

所念

天地跡別之時從久方乃天驗常且大王天之

河原爾璞月累而妹爾相時候跡立待爾吾衣

手爾秋風之吹反者立坐多土伎乎不知村肝

異 具作其  
活 每來字  
曆 同  
異 族荒本三字  
作秋芳子三字  
作其

總 鳥作焉

曆 且作定  
曆 立作云  
活 坐作生

曆  
得作將

心コ、ロオホ不欲解衣思亂エス トキ キヌノオモヒミタレテ而何時跡イツレカ吾待トワカ今夜此川行コヨヒコノカハノユキ

長有得鴨オカシアリトカモ

天反歌

妹爾相時片待跡久方乃天之漢原爾月叙經イモニアラトキカタツトヒサカタノアマノカハラニツキソヘニ

來ケル

詠花

竿志鹿之心相念秋芽子之鐘禮零丹落僧惜サラシカノコロアヒオモフアキハキノシクレノフルニチリソフラシ

毛モ

夕去野邊秋芽子未若露枯金待難ユフサレハノアキハキスエワカミツミレカレテアキニチカタシ

右二首柿本朝臣人麿之訶集出

真葛原名引秋風吹每阿太乃大野之芽子花マクスハラナヒクアキカセフクコトニアタノオホノハキノハナ

散チル

鴈鳴之來喧牟日及見乍將有此芽子原爾雨カリカ子ノキナカムヒマテミツアラムコノハキハラニアメ

勿零根ナフリソネ

奥山爾住云男鹿之初夜不去妻問芽子之散オクヤマニスムテフシカノヨヒサラスツマトフハキノチル

久惜裳クヲシモ

萬葉集卷下

廿四

白露乃置卷惜秋茅子乎折耳折而置哉枯

秋田前借廬之宿爾穗經及咲有秋茅子雖見

不飽香聞

吾衣摺有者不在高松之野邊行之者茅子之

摺類曾

此暮秋風吹奴白露爾荒爭茅子之明日將咲

見

秋風冷成奴馬並而去來於野行奈茅子花見

爾

朝果朝露負咲雖云暮陰社咲益家禮

春去者霞隱不所見有師秋茅子咲折而將挿

頭

沙額田乃野邊乃秋茅子時有者今盛有折而

將挿頭

事更爾衣者不摺佳人部為咲野之茅子爾丹

穗日而將居

異果作果

曆 急之作急々  
此歌假名る

曆 風之作風者  
異未作未

曆 乎作手

秋風者急之吹來茅子花落卷惜三競竟

我屋前之茅子之若未長秋風之吹南時爾將

開跡思乎

人皆者茅子乎秋云縱吾等者乎花之未乎秋

跡者將言

玉梓公之使乃手折來有此秋茅子者雖見不

飽鹿裳

吾屋前爾開有秋茅子常有者我待人爾令見

猿物乎

手寸十名相殖之名知久出見者屋前之早茅

子咲爾家類香聞

吾屋外爾殖生有秋茅子乎誰標刺吾爾不所

知

手取者袖并丹覆美人部師此白露爾散卷惜

白露爾荒爭金手咲茅子散惜兼雨莫零根

媿孀等行相乃速稻乎蒨時成來下茅子花咲

曆 梓作梓

曆 乎作呼

曆 初句假名て  
とすまゝ  
徳同

朝霧之棚引小野之茅子花今哉散盃未厭爾

戀之久者形見爾為與登吾背子我殖之秋茅

子花咲爾家里

秋茅子戀不盡跡雖念思惠也安多良思又將

相八方

秋風者日異吹奴高圓之野邊之秋茅子散卷

惜裳

大夫之心者無而秋茅子之戀耳八方奈積而

有南

吾待之秋者來奴雖然茅子之花曾毛未開家

類

欲見吾待戀之秋茅子者枝毛思美三荷花開

二家里

春日野之茅子落者朝東風爾副而此間爾落

來根

秋茅子者於鴈不相常言有者香

有可聞音乎

活 霧作露

聞而者花爾散去流

秋去者妹令視跡殖之茅子霧霜負而散來毛毳

詠鴈

秋風爾山跡部越鴈鳴者射矢遠放雲隱筒

明闇之朝霧隱鳴而去鴈者言戀於妹告社

吾屋戶爾鳴之鴈哭雲上爾今夜喧成國方可

聞

遊群

曆 跡部二字作  
飛一字者作之射  
夫二字作嚴一字  
放作離筒作良思  
二字  
曆 言作吾  
異同

活 焉作鳥

左小牡鹿之妻問時爾月乎吉三切木四之泣

所聞今時來等霜

天雲之外鴈鳴從聞之薄垂霜零寒此夜者

一云彌益益爾戀許曾增焉

秋田吾荊婆可能過去者鴈之喧所聞冬方設

而

葦邊在荻之葉左夜藝秋風之吹來苗丹鴈鳴

渡

一云秋風爾鴈音所聞今四來霜

押照難波穿江之葦邊者鴈宿有疑霜乃零爾

秋風爾山飛越鴈鳴之聲遠離雲隱良思

朝爾往鴈之鳴音者如吾物念可毛聲之悲

多頭我鳴乃今朝鳴奈倍爾鴈鳴者何處指香

雲隱良哉

野干王之夜度鴈者鬱幾夜乎歷而鹿已名乎

告

曆哉作武

璞年之經往者阿跡念登夜渡吾乎問人哉誰

曆阿作何

詠鹿鳴

此日之秋朝開爾霧隱妻呼雄鹿之音之亮左

曆比作昨

左男牡鹿之妻整登鳴音之將至極靡茅子原

於君戀裡觸居者敷野之秋茅子凌左牡鹿鳴

裳

鴈來茅子者散跡左小牡鹿之鳴成音毛裡觸

丹來



活焉作鳥

秋茅子之戀裳不盡者左小鹿之聲伊續伊續

戀許增益焉

山近家哉可居左小牡鹿乃音乎聞乍宿不勝

鴨

山邊爾射去薩雄者雖大有山爾文野爾文沙

小牡鹿鳴母

足日木笑山從來世波左小鹿之妻呼音聞益

物乎

活彌作爾

山邊庭薩雄乃彌良比恐跡小牡鹿鳴成妻之

眼乎欲焉

秋茅子之散去見鬱三妻戀為良思棹牡鹿鳴

母

山遠京爾之有者狹小牡鹿之妻呼音者之毛

有香

秋茅子之散過去者左小牡鹿者和備鳴將為

名不見者之焉

活焉作鳥

活焉作鳥

曆 小作少  
古 曾下有白  
字

秋茅子之咲有野邊者左小牡鹿曾露乎別乍

婦問四家類

奈何牡鹿之和備鳴爲成蓋毛秋野之茅子也

繁將落

秋茅子之開有野邊左牡鹿者落卷惜見鳴去

物乎

足日木乃山之跡陰爾鳴鹿之聲聞爲八方山

田守酢兒

詠蟬

暮影來鳴日晚之幾許每日聞跡不足音可聞

詠蟋蟀

秋風之寒吹奈倍吾屋前之淺茅之本蟋蟀鳴

毛

影草乃生有屋外之暮陰爾鳴蟋蟀者雖聞不

足可聞

庭草爾村雨落而蟋蟀之鳴音聞者秋付爾家

曆 無蟋字

異 本字下有爾  
曆 總字 同

曆 無不字

里

詠蝦

三吉野乃石本不避鳴川津諾文鳴來河乎淨

神名火之山下動去水丹川津鳴成秋登將云

鳥屋

草枕客爾物念吾聞者夕片設而鳴川津可聞

瀨呼速見落當知足白浪爾川津鳴奈里朝夕

每

曆片作計

總石作古

香

上瀨爾河津妻呼暮去者衣手寒三妻將枕跡

詠鳥

妹手乎取石池之浪間從鳥音異鳴秋過良之

秋野之草花我未鳴舌百鳥音聞盪香片聞吾

妹

詠露

冷芽子丹置白露朝朝珠斗曾見流置白露

新巻

四十一

暮立之雨落每ユフタチノアメフルコトニ一云打春日野之尾花之上乃一云打カスカノラハナカウノ

白露所念シラツユオモホシ

秋芽子之枝毛十尾丹露霜置寒毛時者成爾アキハキノエタモトヲ、ニツユシモオキサカモトキハナリニ

家類可聞ケルカモ

白露與秋芽子者戀亂別事難吾情可聞シラツユトアキノハキトハコトニカクワカモロカモ

吾屋戸之麻花押靡置露爾手觸吾妹兒落卷ワヤトノヲオシナミオクツユニテフレワキモコチララ

毛將見モミム

白露乎取者可消去來子等露爾爭而芽子之シラツユヲトラハケテコトモツユニイヒテハキノ

遊將爲アソビセム

秋田苜借廬乎作吾居者衣手寒露置爾家留アキタカルカリホヲツクリセレハヨロモテサシツユオキニケル

日來之秋風寒芽子之花令散白露置爾來下コノヨロノアキカササハキノハナチラスシラツユオキニケラシモ

秋田苜苦手搖奈利白露者置穗田無跡告爾アキタカルトミテウクナリシラツユハオクホタナレトツケニ

來良思キヌラシ

一云告爾來良思母ツケニケラシモ

詠山

春者毛要夏者綠丹紅之綠色爾所見秋山可ハルハモエナツハニトリニクキサノニシキニミユルアキヤマ

曆者作志二句假名とくをる

曆一云以下八字小書二行

聞

詠黃葉

妻隱矢野神山露霜爾爾寶比始散卷惜  
朝露爾淅始秋山爾鐘禮莫零在渡金

右二首柿本朝臣人麿之訶集出

九月乃鐘禮乃雨丹沾通春日之山者色付丹

來

鴈鳴之寒朝関之露有之春日山乎今黃物者

比日之曉露丹吾屋前之茅子乃下葉者色付

爾家里

鴈鳴者今者來鳴沼吾待之黃葉早繼待者辛

苦母

秋山乎謹人懸勿忘西其黃葉乃所思君

大坂乎吾越來者二上爾黃葉流志具禮零乍

秋去者置白露爾吾門乃淺茅何浦葉色付爾

家里

高...

...

妹之袖卷來乃山之朝露爾仁寶布黃葉之散

卷惜裳

黃葉之丹穗日者繁然鞞妻梨木乎手折可佐

寒

露霜聞寒夕之秋風丹黃葉爾來毛妻梨之木

者

吾門之淺茅色就吉魚張能浪柴乃野之黃葉

散良新

鴈之鳴乎聞鶴奈倍爾高松之野上之草曾色

付爾家留

吾背兒我白細衣往觸者應染毛黃變山可聞

秋風之日異吹者水莖能岡之木葉毛色付爾

家里

鴈鳴乃來鳴之共韓衣裁田之山者黃始有

鴈之鳴聲聞苗荷明日從者借香能山者黃始

南

曆注云謂大城者在筑前國御笠郡大野山頂号曰大城者也總大同小異  
曆小作少

四具禮能雨無間之零者真木葉毛爭不勝而

色付爾家里

灼然四具禮乃雨者零勿國大城山者色付爾

家里

風吹者黃葉散乍小雲吾松原清在莫國

物念隱座而今日見者春日山者色就爾家里

九月白露負而足日木乃山之將黃變見幕下

吉

妹許跡馬鞍置而射駒山擊越來者紅葉散筒

黃葉為時爾成良之月人楓枝乃色付見者

里異霜者置良之高松野山司之色付見者

秋風之日異吹者露重茅子之下葉者色付來

秋茅子乃下葉赤荒玉乃月之歷去者風疾鴨

真十鏡見名淵山者今日鴨白露置而黃葉將

散

吾屋戶之淺茅色付吉魚張之夏身之上爾四

曆里異作異里  
古初句假名と  
古山司作官司  
松殿京兆本皆同  
中之  
結句假名カ  
セハヤニカモ

具禮零疑

鴈鳴之寒鳴從水莖之岡乃葛葉者色付爾來

秋茅子之下葉乃黃葉於花繼時過去者後將

戀鴨

明日香河黃葉流葛木山之木葉者今之散疑

妹之紉解登結而立田山今許曾黃葉始而有

家禮

鴈鳴之喧之從春日在三笠山者色付丹家里

比者之五更露爾吾屋戶乃秋之茅子原色付

爾家里

夕去者鴈之越往龍田山四具禮爾競色付爾

家里

左夜深而四具禮勿零秋茅子之本葉之黃葉

落卷惜裳

古鄉之始黃葉乎手折以而今日曾吾來不見

人之爲

曆 每而字  
同曆



總 每乃之之字  
每者字  
異 之世草早者  
落六字作苗草早  
落之者六字

君之家乃之黃葉早者落四具禮乃雨爾所沾  
良之母  
一年二遍不行秋山乎情爾不飽過之鶴鴨

詠水田

足曳之山田佃子不秀友繩谷延與守登知金  
左小牡鹿之妻喚山之岳邊在早田者不茹霜  
者雖零

曆沙作妙

所念鴨

詠河

暮不去河蝦鳴成三和河之清瀨音乎聞師吉  
毛

詠月

天海月船浮桂梶懸而榜所見月人壯子  
此夜等者沙夜深去良之鴈鳴乃所聞空從月  
立度

活 壯作壯

萬葉卷十

異鳥作焉

吾背子之挿頭之茅子爾置露乎清見世跡月

者照良思

無心秋月夜之物念跡寐不所宿照乍本名

不念爾四具禮乃雨者零有跡天雲霽而月夜

清鳥

茅子之花開乃乎再入緒見代跡可聞月夜之

清戀益良國

白露乎玉作有九月在明之月夜雖見不飽可

聞

詠風

戀乍裳稻葉搔別家居者乏不有秋之暮風

茅子花咲有野邊日晚之乃鳴奈流共秋風吹

秋山之木葉文未赤者今日吹風者霜毛置應

久

詠芳

高松之此峰迫爾笠立而盈盛有秋香乃吉者

活曆 今日作今日  
應作雁

詠雨

一日千重敷布我戀妹當為暮零禮見

右一首柿本朝臣人磨之歌集出

秋田苜客乃廬入爾四具禮零我袖沾于人無

二

玉手次不懸時無吾戀此具禮志者者沾乍毛

將行

黃葉乎令落四具禮能零苗爾夜副衣寒一之

活者者作零者

宿者

詠霜

天飛也鴈之翅乃覆羽之何處漏香霜之零異

牟

秋相聞

金山舌日下鳴鳥音聞何嘆出

誰彼我莫問九月露沾乍君待吾

秋夜霧發渡夙夙夢見妹形矣

曆乃作之

秋山尾花未生靡心妹依鴨

秋山霜零覆木葉落歲雖行我忘八

右柿本朝臣人磨之歌集出

寄水田

住吉之岨乎田爾墾蒔稻乃而及苟不相公鴨

劍後玉纏田井爾及何時可妹乎不相見家戀

將居

秋田之穗上爾置白露之可消吾者所念鴨

秋田之穗向之所依片縁吾者物念都禮無物

乎

秋田川借廬作五百入爲而有藍君叫將見依

毛欲將

鶴鳴之所聞田井爾五百入爲而吾客有跡於

妹告社

春霞多奈引田居爾廬付而秋田均左右令思

良久

古 寄作詠

曆 田作山

曆 將作得 異同

曆 未  
無不字案作

橘乎守部乃五十戸之門田早稻蒔時過去不  
來跡爲等霜

寄露

秋茅子之開散野邊之暮露爾沾乍來益夜者

深去鞞

色付相秋之露霜莫零妹之手本乎不纏今夜

者

秋茅子之上爾置有白露之消鴨死猿戀爾不

曆 鞞作鞞

曆 爾作作

有者

吾屋前秋茅子上置露市白霜吾戀目八面

秋穗乎之努爾押靡置露消鴨死益戀乍不有

者

露霜爾衣袖所沾而今谷毛妹許行名夜者雖

深

秋茅子之枝毛十尾爾置露之消毛死猿戀乍

不有者

真葉卷十

五十一

秋茅子之上爾白露每置見管曾思努布君之光儀乎

寄風

吾妹子者衣丹有南秋風之寒比來下着益乎泊瀨風如是吹三更者及何時衣片敷吾一將宿

寄雨

秋茅子乎令落長雨之零比者一起居而戀夜

曾大寸

九月四具禮乃雨之山霧煙寸吾告曾誰乎見

者將息

一云十月四具禮乃雨降

寄蟋

蟋蟀之待歡秋夜乎寐驗無枕與吾者

寄蝦

朝霞鹿火屋之下爾鳴蝦聲谷聞者吾將戀八

曆吉 煙作烟告作 每告字

德 蟋下有蟋字 同

萬葉集卷十

五十二

方

寄鴈

イテ、イナハ、アトフ、カリノ、オキ又ヘ、ミ、ケ、フ、ケ、フ、ト、イ、フ、ニ  
出去者天飛鴈之可泣美旦今日旦今日云二  
トシソヘニケル  
年曾經去家類

寄鹿

サ、ラ、シ、カ、ノ、ア、サ、フ、ス、ラ、ノ、ク、サ、ワ、カ、ミ、カ、ク、ロ、ヒ、カ、子、テ、ヒ、ト  
左小牡鹿之朝伏小野之草若美隱不得而於  
人所知名  
サ、ラ、シ、カ、ノ、ア、サ、フ、ス、ラ、ノ、ク、サ、フ、シ、イ、チ、シ、ロ、ク、ワ、カ、ト、ハ、サ、ル、ニ、ヒ、ト、ノ、シ、レ  
左小牡鹿之小野草伏灼然吾不問爾人乃知

良久

寄鶴

コ、ノ、ヨ、ラ、ノ、ア、カ、ツ、キ、ク、タ、チ、ナ、ク、タ、ツ、ノ、オ、モ、ヒ、ハ、ス、キ、ス、コ、ヒ、コ、ソ、ニ、サ、レ  
今夜乃曉降鳴鶴之念不過戀許增益也

寄草

ミ、チ、ノ、ヘ、ノ、ヲ、ハ、ナ、カ、シ、タ、ノ、オ、モ、ヒ、ク、サ、イ、サ、ラ、ナ、ニ、ノ、モ、ノ、カ、オ、モ、ハ、ム  
道邊之乎花我下之思草今更爾何物可將思

寄花

ク、サ、フ、カ、ミ、キ、リ、ク、ス、イ、タ、ク、ナ、ク、ヤ、ト、ニ、ハ、キ、ミ、ニ、キ、ミ、ハ、イ、ツ、カ、キ、一、サ、ム  
草深三蟋多鳴屋前茅子見公者何時來益牟  
ア、キ、ツ、ケ、ハ、ミ、ク、サ、ノ、ハ、ナ、ノ、ア、エ、ヌ、カ、ニ、オ、モ、ヘ、ト、シ、ラ、ス、タ、ニ、ア、ハ  
秋就者水草花乃阿要奴蟹思跡不知直爾不

古 大作天  
活 大作天今日  
今日 大作天今日  
作 今且今日  
總 同

可 活  
若 若作吾不作

萬葉集卷二

五十一

曆 云下有者字

相在者サレハ 何為等ナニスト加君乎トカキミヲ將イト厭ム秋アキ茅子ハキ乃ノ其始ソノハジメ花ハナ之ノ歡ウレシキ寸チ  
物乎モノヲ

展轉コヒマロヒ戀者コヒハシ死友シヌトモ灼然シロクイロニ色庭イテレ不出アサカホノハナ朝容貌アサカホノハナ之花ハナ  
言出コトニイテ而云イハ忌イミ染シ朝貌アサカホノ乃ホニ穗庭サキイテヌ開不出コヒラスル戀為カモ鴨カモ

鴈鳴カリカ子ノ之始ハジメ音聞コエキ而開テ出有サキテタル屋前ヤト之秋ノアキ茅子ハキ見來ミニ

吾世古ワカセコ

左小牡鹿サヲシカ之入野ノイルノ乃為ス酢寸キツラ初尾ハチイツレ花ハナ何時カ加妹カイモ

曆 將手作手將

之將手枕カタクラニセム

曆 三作吾

戀日コルヒ之氣ノケ長有者ナガクアレハ三苑ミソノ園能ノ辛カラ藍花アヲ之色ノイロ出爾ニイテニ

來ケリ

曆 女即花作娘 部四般之五字

吾鄉ワカサト爾今ニイマ咲花サクハナ乃女ノメ郎花ノハナ不堪タヘヌ情尚コトホ戀二コヒニ家里ケリ

茅子ハキノ花ハナ咲有ハナサケル乎見者ヲミレハ君不相キミニアハス真毛マニ久二ナリニ成來ケルカモ鴨カモ

朝露アサツユ爾ニ咲サキ酢左ササヒ乾垂タル鴨頭ツキクサ草之日ノヒ斜タクルト共可モニケヌ消所ヘクオモ

念ホユ

長夜ナカキヨ乎ヲ於君キミニ戀コヒツ乍不生者イケラスハ開而サキテ落チリ西花ニハナ有益アラミシ乎ヲ

活 毎頭字



吾妹兒爾相坂山之皮爲酢寸穗庭開不出戀  
渡鴨

活率作率

率爾今毛欲見秋茅之四搓二將有妹之光儀

乎

秋茅子之花野乃爲酢寸穗庭不出吾戀度隱

孀波母

吾屋戶爾開秋茅子散過而實成及丹於君不

相鴨

活無開字

吾屋前之茅子開二家里不落間爾早來可見

平城里人

石走間間生有貌花乃花西有來在筒見者

藤原古郷之秋茅子者開而落去寸君待不得

而

秋茅子乎落過沼蛇手折持雖見不怜君西不

有者

朝開夕者消流鴨頭草可消戀毛吾者爲鴨

水三句假名ツ  
ユクサク

萬葉集卷十

五十五

活 核作梳

蛭野之尾花菊副秋茅子之花乎葺核君之借

廬

活 視作禮

咲友不知師有者默然將有此秋茅子乎令視

管本名

寄山

秋去者鴈飛越龍田山立而毛居而毛君乎思

曾念

寄黃葉

曆 不字下有來  
異字 同

我屋戶之田葛葉日殊色付奴不座君者何情

曾毛

足引乃山佐奈葛黃變及妹爾不相哉吾戀將

居

黃葉之過不勝兒乎人妻跡見乍哉將有戀敷

物乎

寄月

於君戀之奈要浦觸吾居者秋風吹而月斜烏

異 烏作焉

秋夜之月疑意君者雲隱須臾不見者幾許戀

敷

九月之在明能月夜有乍毛君之來座者吾將

戀八方

寄夜

忍咲八師不戀登為跡金風之寒吹夜者君乎

之曾念

惑者之痛情無跡將念秋之長夜乎寐師耳

袖初句假名ヲ  
シエヤレ

曆惑作或寐師  
作寤臥

秋夜乎長跡雖言積西戀盡者短有家里

寄衣

秋都葉爾爾寶敞流衣吾者不服於君奉者夜

毛著金

問答

旅尚襟解物乎事繁三丸宿吾為長此夜

四具禮零曉月夜紐不解戀君跡居益物

於黃葉置白露之色葉二毛不出跡念者事之

曆戀作悲

繁家口

雨零者瀧都山川於石觸君之摧情者不持

右一首不類秋詩而以和載之也

譬喻歌

祝部等之齋經社之黃葉毛標繩越而落云物

乎

旋頭歌

蟋蟀之吾床隔爾鳴乍本名起居管君爾戀爾

宿不勝爾

皮爲酢寸穗庭開不出戀乎吾爲玉蜻直一目

耳視之人故爾

冬雜歌

我袖爾電手走卷隱不消有妹爲見

足曳之山鴨高卷向之木志乃子松二三雪落

來

卷向之檜原毛未雲居者子松之未由沫雪流

古 以下有序字  
異 以下有次字

曆 祝作祀齋作

活 每一字

萬葉集卷下

五十八

萬葉集卷下

五十九

曆 杖作我

曆 或云以下六  
字每之

曆 但字下有件  
字

足引山道不知白杜杖枝母等乎乎爾雪落者

或云枝毛多和多和

右柿本朝臣人磨之歌集出也但一首

或本云三方沙彌作

詠雪

奈良山乃峰尚霧合宇倍志社前垣之下乃雪

者不消家禮

殊落者袖副沾而可通將落雪之空爾消二管

夜乎寒三朝戸乎聞出見者庭毛薄大良爾三

雪落有 一云庭裳保杼呂爾雪曾零而有

暮去者衣袖寒之高松之山木每雪曾零有

吾袖爾零鶴雪毛流去而妹之手本伊行觸糠

沫雪者今日者莫零白妙之袖纏將干人毛不

有惡

甚多毛不零雪故言多毛天三空者隱相管

吾背子乎且今且今出見者沫雪零有庭毛保

曆 一云以下十  
一字每之

曆 惡作君

杼呂爾

足引山爾白者我屋戸爾昨日暮零之雪疑意

詠花

誰苑之梅花毛久堅之清月夜爾幾許散來

梅花先開枝手折而者累常名付而與副手六

香聞

誰苑之梅爾可有家武幾許毛開有可毛見我

欲左右手二

曆枝下有乎字  
常作裳

來可見人毛不有爾吾家有梅早花落十方吉

雪寒三咲者不開梅花縱比來者然而毛有金

詠露

為妹末枝梅乎手折登波下枝之露爾沾家類

可聞

詠黃葉

八田乃野之淺茅色付有乳山峰之沫雪寒零

良之

詠月

左夜深者出來牟月乎高山之峰白雲將隱鴨

冬相聞

零雪虛空可消雖戀相依無月經在

沫雪千里零敷戀為來食永我見悵

右柿本朝臣人麿之歌集出

寄露

咲出照梅之下枝置露之可消於妹戀頃者

寄霜

甚毛夜深勿行道邊之湯小竹之於爾霜降夜

鳥

寄雪

小竹葉爾薄太禮零覆消名羽鴨將忘云者益

所念

霰落板敢風吹寒夜也旗野爾今夜吾獨寐牟

吉名張乃野木爾零覆白雪乃市白霜將戀吾

曆沫一字作阿和二字

德鳥作焉

活板作枝

吉名張乃野木

六十一

鴨

鴨 一 眼 見 之 人 爾 戀 良 久 天 霧 之 零 來 雪 之 可 消

所 念

思 出 時 者 爲 便 無 豐 國 之 木 綿 山 雪 之 可 消 所

念

如 夢 君 乎 相 見 而 天 霧 之 落 來 雪 之 可 消 所 念

吾 背 子 之 言 愛 美 出 去 者 裳 引 將 知 雪 勿 零

梅 花 其 跡 毛 不 所 見 零 雪 之 市 白 兼 名 問 使 遣

活 問 作 門

者 一 云 零 雪 爾 間 使 遣 者 其 將 知 名

天 霧 相 零 來 雪 之 消 友 於 君 合 常 流 經 度

窺 良 布 跡 見 山 雪 之 灼 然 戀 者 妹 名 人 將 知 可

聞 小 船 泊 瀨 乃 山 爾 落 雪 之 消 長 戀 師 君 之 音

曾 爲 流

和 射 美 能 嶺 往 過 而 零 雪 乃 馱 毛 無 跡 白 其 兒

爾

鳥 書 卷 一

六 十 二



寄花

ワカヤトニサキタルウメヲソキヨヨニヨナクニセムキニラ  
吾屋戸爾開有梅乎月夜好美夕夕冷見君乎  
ソノツヤ  
祚待也



寄夜  
足檜木乃山下風波雖不吹君無夕者豫寒毛



萬葉集卷第十  
爾開有梅乎月夜好美夕夕冷見君乎  
君無夕者豫寒毛

